

熊本県立菊池支援学校山鹿分教室 令和2年度（2020年度）学校評価表

1 学校教育目標						
一人一人の障がいの状態や特性、教育的ニーズなどエビデンスに基づいた教育活動を実践し、未来に向かって自立し、社会参加できる、生きる力を持った児童生徒を育成する。						
2 本年度の重点目標						
取組テーマ						
「地域の関係機関との「協働」による地域に根ざした学校づくり～「障がいのある人が活躍し、生き生きと生活し、認め合える社会」の実現を目指して～」						
(1) 人権教育に関する研修を一層深め、同和問題に関する基本的認識を深めるとともに、児童生徒理解に努め、いじめのない学校づくりを行う。						
(2) 危機管理、学校保健及び学校安全の一層の充実を図り、心身ともに健康で安全に学校生活を送ることができる学校づくりを推進する。						
(3) 教職員の働き方改革を推進し、児童生徒と向き合う時間の確保と授業の充実を図る。						
(4) 個別の教育支援計画、個別の指導計画作成に当たっては、適切な合理的配慮の提供も含め、保護者、関係者との積極的な合意形成に努める。						
(5) 指導・支援と評価の一体化やPDCAサイクルによる授業改善など、教育活動全般の改善・充実を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現に努める。						
(6) 共生社会の実現をめざすインクルーシブ教育システムの観点から、近隣小中学校との交流及び共同学習並びに居住地校交流にも積極的に取り組んでいく。						
(7) 行事等を通して、地域社会との交流を積極的に推進し、児童生徒が生活経験を広げるとともに、地域社会との相互理解を一層深めるように取り組む。						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革の推進	分かりやすいデータの蓄積と仕事の効率化	・見て分かりやすい職員室環境、書類、データの管理や整理を行う。	・データや書類の保存方法のルールを設定し整理する。	A	・夏季・冬季休業中に書類や備品等の整理ができた。分掌部データは、本年度分は90%はルールに沿って保存できた。
		在校時間の上限を意識した計画的な業務遂行	・本年度から施行された在校時間の上限を職員に周知し、在校時間を意識した働き方を学校全体で推し進める。	・4月の職員会議で職員に在校時間の上限について知らせる。 ・毎月、タイムカード打刻等による勤務時間等を各自で確認するとともに、計画的な業務を行う。	B	・毎月のタイムカード打刻による時間外勤務の平均は上限を超えなかった。 ・時間外勤務の上限を超えた職員もいたので今後は計画的な業務遂行及び業務の平準化に取り組む。
授業の充実	一人一人の教育的ニーズに応える教育課程の創造	一人一人の教育的ニーズに応える教育課程の創造	・カリキュラム・マネジメントを推進する。	・評価を充実させ、授業改善及びカリキュラム・マネジメントの充実を図る。	C	・評価表の活用は難しかったが、評価の日いちや項目を決めてポイントを絞って行ったり、別様の物を用いて授業後にT1、T2で内容の見直しを行ったりすることができた。
	自立活動の指導の充実	自立活動の指導の充実	・自立活動の個別の指導計画を活用した授業実践をする。	・自立活動の個別の指導計画を活用し、個々の児童生徒に応じた自立活動の指導を行う。	B	・指導教諭からの助言や各学年授業研究会を行うことで、意見交換し授業を改善することができた。適切な個別の指導計画目標、内容作成は、今後も継続した研修やケース会議が必要である。
キャリア教育(進路指導)	生徒1人1人に合わせた進路指導の充実	関係機関と連携した進路指導の充実	・進路指導に関する積極的な情報の収集、共有、提供を行う。	・キャリアサポーターと連携し、現場実習先の開拓を行う。 ・地域の事業所と連携し、保護者のニーズに応じた研修会を実施する。	B	・キャリアサポーターと連携した3年生の進路開拓やハローワーク職員の講演を行うことができた。保護者アンケートを取りニーズに応じた研修を計画したが、コロナ禍で実施できなかった。次年度は実施する。
生徒(生活)指導	情報モラル教育の充実	携帯電話やスマートフォン等の使用マナー・ルールの遵守	・携帯電話やスマートフォン利用状況のアンケートを実施し、生徒会を中心に使い方のルールを設定する。	・外部講師による携帯・スマートフォン安全教室や自立活動、国語等において類推力や伝え方の学習を行う。 ・生徒会を中心にルールを設定し、集会等で周知徹底、自己チェックを行う。	B	・コロナ禍で外部講師による安全教室は実施できなかったが、情報の時間等でSNSの利用方法を話し合っクラスルールを作成したり、情報モラルの学習を行ったりして理解を深めた。
人権教育の推進	日々のあらゆる教育活動における人権尊重の観点からの具体的実践 命を大切にす る心を育む指導の充実	日々の教育活動の実践と振り返りによる人権尊重意識の向上 自尊感情・自己実現・共生の視点を踏まえた子どもの心に深く響く教育活動の実践	・幅広い人権意識をもった授業研究や人権週間(12月)に取り組む。 ・自己理解を深め、自分のよさや友達のよさを認めたり、生かしたりして互いに協力することができる。	・地区の人権教育推進協議会、公開授業研究会等に参加し、地区の人権教育の推進状況等について知見を広めた上で、各学部の人権目標に沿った取組を実施する。 ・道徳科やLHR、家庭科等で命の大切さを題材にした体験的な学習や交流学習を実施する。また、個に応じて自立活動の時間や進路学習で自己理解や他者理解が深まるようにする。	B	・コロナ禍で地区の人権教育推進協議会等の参加や体験的な学習・交流は実施できなかった。 ・クラスで気になることがあったときにLHRで話し合い活動を行ったり、自立活動での自己理解や他者理解を深める授業を行ったりした。そのことを通して、自己理解や自尊感情の高まりが見られたり、生徒同士が思いやりながら言葉を交わしたりすることができるようになってきた。
いじめの防止等	いじめ防止のための取組みと重大事態の予防	いじめ防止等の対策のための組織的な取組	・外部専門家等を入れた「いじめ防止等対策委員会」を年3回実施し、いじめ防止等の対策に組織で取り組む。	・各学部でいじめが疑われる情報を収集し、いじめ防止等対策委員会で報告を行い、いじめを認知したり、事案について指導支援、対応方針を確認したりしていじめの解消に取り組む。 ・重大事態に移行するおそれのある事案については、速やかに委員会を開催して対策等を講じる。	B	・いじめが疑われる案件について、情報を収集し、指導を行うことができた。ただし、スピード感・危機感を持った状況の把握や対応、報告については更に感度を高める必要がある。
地域支援	特別支援教育の情報発信	本校の概要や取組を説明する機会の設定	・山鹿地区の高等学校合同説明会やお便り等で本校概要や取組の説明を行う。	・高等学校合同説明会等で写真を用いたパネルや作業製品を準備し、多くの人に山鹿分教室生徒の様子や活動を知らせる。	B	・高等学校合同説明会や販売会等でパネルやチラシで様子を伝えることができた。

健康で安全な学校生活	生徒の健康管理の推進	生徒の心身の健康の保持増進	・ 基本的生活習慣の改善のための指導や性教育の充実を図る。	・ 基本的生活習慣についてアンケートを実施し、実態や課題を把握し、担任と連携をとりながら、一斉指導と個別指導を計画的に行う。 ・ 性教育に関する年間計画を作成し、年間計画に沿って性教育や近隣校と連携を図って実態に応じた講話を実施する。 ・ 個別指導は適宜行い、専門機関と連携を図るようにする。	A	・ 基本的生活習慣や性の悩み等、アンケートを取り、生徒の実態に応じて一斉授業や個別での指導ができた。スクールカウンセラーの積極的な活用を行い、生徒の悩みの軽減や教師の指導方法の一助とすることができた。
	安心安全な学校づくり	生徒の安全確保体制の再確認	・ 各種マニュアル内容を見直し、様々な体制や対応について共通理解を図る。	・ 安全生活部を中心に分教室の実態に合った安全確保体制の見直しを行い、図示化したものを各教室、職員室に置いておく。 ・ 近隣校と合同の緊急時の避難訓練を行う。	B	・ 近隣校との合同避難訓練はできなかったが、各種マニュアル内容の見直しや搜索訓練を行うことができた。これらの引継を新校に確実に行う。
教育環境の整備	学校・地域環境美化の推進	校内・地域美化の取組	・ 職員と生徒の環境美化への意識を高め、校内及び地域の環境美化に取り組む。	・ 職員による校舎周りの清掃を学期に1回実施する。 ・ 総合的な探求地域の時間等で定期的に地域の清掃を行う。	B	・ 地域の清掃は行うことができなかったが、校舎内や周りの清掃は長期休業中に行った。
	情報発信・地域啓発	ホームページの充実	・ 学校ホームページの分教室のページを月1回更新し、情報発信を行う。	・ ホームページ担当者が主要行事や活動終了後に更新する。	A	・ 月1回更新することができた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会の実施	取組テーマに基づいた学校運営	・ 取組テーマ「地域の関係機関との協働による地域に根ざした学校づくり」に基づいた各学部、各分掌部の取組を実施し、地域に根ざした学校づくりを行う。	・ 9月の協議会で学校の取組案を提示し、2月の協議会でテーマに基づいた本年度の本校の取組を検証する。	B	・ 9月、2月の協議会ともに書面開催となったが、本年度の取組に関する検証ができた。 ・ 次年度の取組に向けて、意見聴取ができたので、実現するよう準備を行っていく。